

令和元年度 第1回京都府立図書館協議会 議事要旨

1 開催日時

令和元年6月13日(木) 午前10時から12時まで

2 場所

京都府立図書館(京都市左京区岡崎成勝寺町)

3 出席者

原田隆史委員(会長)、明致親吾委員、小川雅史委員、桂まに子委員、亀井貴子委員、潮江宏三委員、西亜希子委員、野間万里子委員、松下亜樹子委員

4 会議の内容

- (1) 会長の選出、会長職務代理者の指名等
- (2) 平成30年度第3回協議会の議事録要旨について
- (3) 京都府立図書館サービス計画について
- (4) 平成30年度取組状況及び内部評価について
- (5) 令和元年度事業計画について
- (6) その他

5 協議事項

- (1) 会長の選出、会長職務代理者の指名等
 - 会長には原田委員が選出された。
 - 職務代理者には小川委員が会長から指名された。
 - 傍聴要領について確認した。
- (2) 平成30年度第3回協議会の議事録要旨について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
- (3) 京都府立図書館サービス計画について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
- (4) 平成30年度取組状況及び内部評価について
 - 事務局から概要について資料に基づき説明
 - 委員意見
 - ・ 内部評価は図書館の評価基準のようなものに基づくのか、又は職員が協議して行ったのか。また、職員の意見で特徴的なものはあるか。
→新規事業の成果や継続事業でも府民の方々の満足度などの視点を持ちながら職員の意見も聞いた上で決定した。評価についてはこれまでからも様々な意見をいただいているが、昨年度において、もう少し高く評価してもよいのではとの御意見を踏まえ今回の内部評価を決定したものである。
 - ・ 出前研修は大変よい取組である。また、市町村立図書館では購入することが難しい高価な資料も含めて収集されるなど、よく頑張っていると思う。
 - ・ 学校支援についても連絡協力車の巡回回数を含め年々充実するなど、非常に丁

寧な対応をいただきありがたい。

- 学校支援セットのパンフレットは年度当初の教育計画を立てる段階で学校に届いているので、子どもの読書活動の推進が教育計画に反映できていると思う。ホームページも見やすくなり、学校現場で活用しやすくなった。学校としても制度の周知に努めていきたい。
- 美術館等の展覧会とリンクした関連展示は、実際に展覧会をご覧になった方の関心を広げるためにも、岡崎のメリットを生かした非常に有効な取組である。
- 府立図書館と各図書館や大学との連携が進んでいることは高く評価できるが、大学から具体的な効果が上がったといった声はあるか。
 - 大学の図書館は専門書を多く所蔵しており、一般教養的な図書は府立図書館の方が多い。また、市町村立図書館等には市町村独自の地域資料等が豊富にあることから、そういった資料を求める学生の期待に応じていると思っ
- 府立図書館における将来的な収蔵スペースの確保は大きな課題である。毎年、候補先を調査されているが、大まかな年次計画のようなものを作っていただけならと思う。
 - 本来、年次計画を立てるべきであるが極めて厳しい京都府の財政状況がある。新たな収蔵スペースの確保は極めて厳しい状況と考えている。
 - まずは複本の整理や市町村向けの貸出文庫における資料の精査等を行っている。京都府が保有する未利用施設等の活用を含め、ハード整備にかかる費用やランニングコストをどうするのかといった大きな課題があることから本庁と十分協議しながら検討してまいりたい。
- 来館者数や貸出者数について府内図書館のネットワークが充実してきていることを踏まえ、府立図書館だけではなく府内の図書館全体としてデータを把握して検討することが必要ではないか。
 - 府立図書館の年間貸出冊数については前回の協議会において提示したところである。市町村立図書館とあわせた数値は次回の協議会に提示したいが、来館者数はほとんどの市町村図書館では集計するシステムがない。
- 将来的に収蔵庫を現在の府立図書館から相当離れた場所に確保した場合、利用頻度が低い本を移管することになることも考えられる。移管する本を選別できるシステムの導入の検討や利用データを分析するような取組が必要である。
 - 移管する本の選択は指摘のとおり非常に重要であり、今後、会長をはじめ委員の意見も聞きながら、来年度はシステムの更新も考えていることも含めることから、どのようなことができるのか検討してまいりたい。
- 来館者数や貸出冊数が伸び悩んでいることへの取組としては、効果的なPRに力を入れるべきである。新聞に記事やコラム的なもの掲載してもらおうとかSNSの活用、効果的なホームページでの発信が必要であり、サービス計画の残り2年はそこに重点を置かれてはどうか。今後の伸びしろを考えると内部評価は少し高いのではないかと思う。
- 図書館が取り組んでいることを府民にわかりやすく積極的に発信していただくということをお願いしたい。来館者数や貸出冊数の増加への取組に加え、それ以外の取組も、しっかり発信し府民に理解いただくことが大切である。
- 来館者数や講座の参加人数など容易に数値化できる指標だけではなく、満足度であるとか、数値化しにくいものに関しても評価に反映させる方法を考えていく

必要がある。

→ 市町村立図書館等との相互貸借や京都市図書館との返却本お預かりサービスなど、府民へのサービスを充実すればするほど、府立図書館への来館者数は減少することになる。また、来館者数は天候に大きく左右される。来館者数だけを単純な指標とすると矛盾が生じることも事実である。

府立図書館の見える化やPRについても、資料に掲載しているホームページや新聞に加えて、フリーペーパーへの掲載やNHK 京都、KBS 京都での放映など様々な努力を行ってきたところであり、そういったことを踏まえて内部評価を決定したところである。

- ・ 府立図書館の取組や各種の実績は既にホームページで公開され、誰でも見ることができるのに、府民によく知られていると言えない状況はもったいない。
評価に関しては5年のサービス計画の4年目であるが、新規事業を増やすだけでなくしっかり評価しなおし、限られた人員と予算での図書館サービスを考えるべきである。
また、例えば的確なレファレンスや迅速な検索といった満足度は数値化しにくい、評価に反映させる仕組みを検討すればよいのではないか。

<原田会長まとめ>

図書館については単純な実績数値だけでは評価できない難しい部分がある。そのような中、府立図書館においては、市町村立図書館や学校支援の充実にも取り組むとともに、大学図書館との連携の拡充、さらには新たなことにも積極的に取り組んでいるので、内部評価は妥当で概ね了解いただいたと考える。

協議会として内部評価については妥当なものとしていただき、委員の意見を踏まえた微調整を行う場合にあっては会長に一任いただきたい。

(4) 令和元年度事業計画について

- 事務局から概要について資料に基づき説明
- 委員意見
 - ・ ナクソスミュージックライブラリーの体験やデータベースを実際に操作するセミナーなどは、府立図書館の魅力のある活用方法のPRにつながる魅力ある取組である。このようなセミナーや講座をもっとすすめていくとともに、ホームページやSNSで積極的に発信すれば、学生などの利用増につながるのではないか。
 - ・ データベースなどは大学生の時には学校で使用していた卒業生にとって、社会人になっても府立図書館に来れば大学時代と同様に使用することも周知すれば一層効果的である。
 - ・ 外国人のためのパンフレットは、府立図書館の案内を優先した内容で取り組まれてはどうか。
→ 岡崎には多くの外国人観光客が訪問され府立図書館にも寄られることが多いが、外国語の蔵書が少ないこともあり、本年度に知事部局の国際課の協力を得て、カウンターでお渡しできる英語、ハンガール語、中国語の館内を案内するパンフレットを作成したいと考えている。
また、カウンターに自動翻訳機を配備したところである。今後とも可能な範囲ではあるが外国人の方々へのサービス向上に努めてまいりたい。
- ・ 博物館の事例を考えても外国語対応は重要であり、このような3カ国語のパ

ンフレットはグローバル対応への最初の取組としても大切である。

- ・ 16番にある「知的な交流の場の創出」の想定を整理しなおした方が良いのではないか。7番の「資料館・博物館・大学との連携した文化資源の情報発信」にある「京都大学総合博物館との連携による企画展示」が16番にも再掲されているが、知的な交流の場を、図書資料等を活用しながらファシリテーターやフューチャーセンター等の発表の場として、またNPOとの交流の機会とするべく構想を立てたものの、なかなか困難な現実があり再掲せざるを得ない状況がうかがえる。

知的な交流の場の創出は大切なことであるが、あまりに高い理想を掲げたことが逆に府立図書館の重荷になっていないか心配である。例えば、図書を並べて作者など関係者によるイベントを開催し、親子等が参加して実際に本に触れるといったことでも「知的な交流の場」といえるのではないか。府立図書館の蔵書を考えて例えば挿絵のある和書など、工夫次第であまり労力をかけずに楽しそうな企画を実施できると考える。

→ 指摘のとおり現サービス計画作成時は非常に崇高な取組を考えていた。

実際にはNPOの取組においてナレッジベースを活用いただき、その場に関連する図書資料を展示して使用してもらい、府立図書館の歴史や概要を説明するなど行ってきたところである。知的な交流の場として位置づけたナレッジベースを活用した大学との連携企画なども16番に含め、府立図書館に一層興味を持っていただきたいと考えたところである。

次期サービス計画では、ご指摘の点を踏まえ、検討してまいりたい。

- ・ ホームページでの情報発信は大切であるが、細かい資料を掲載してもじっくり読む方は少ないので、府立図書館のやりたいこと、府立図書館はこういうところなんだというイメージづくりに繋がる情報発信が必要である。

大学との連携は大学のまち京都ならではの京都府立図書館らしい取組であるし、社会的な課題に対応する子ども食堂との連携やフリースクールへの貸出等は非常に大切で有意義な取組である。府民にわかりやすく発信すべきである。

- ・ 知的な交流の場の創出は非常に関心がある。外部の人がどんどん活用していくような流れになれば良いと思う。
- ・ 学校支援セット貸出は、例えば大学1回生など研究に入る前段階の教材としても有効なので、可能であれば広げていただきたい。また、こういう取組は一層積極的にPRすべきである。
- ・ 学校の敷地内か学校近辺にある放課後子ども教室への貸出も関連部局と連携し検討されてはどうか。実際に学校図書館の廃棄本を活用されるなど、ニーズはあると思うし、教育的にも有効である。

→ 府立図書館の搬送先が市町村立図書館等であること等を踏まえ、放課後子ども教室の運営主体である市町村の意向も確認しながら研究してまいりたい。

- ・ 大学生向けのミニパンフレットは高校生でも活用できる内容である。
- ・ 講演会などのイベントや新規事業は重要であるが、働き方改革も言われる中、職員の過大な負担とならないよう工夫して進めていただきたい。
- ・ 電子サービスについては、新規性が問われるところだと思うので、例えばVRなど検討してみてもどうか。
- ・ 外国人向けのパンフレットに関して、図書館のファサードを見て「何だろう」と入館される外国人観光客も多いと思うが、そうであれば設計者である武田

五一は記載すべきである。

<原田会長まとめ>

・委員から非常に有意義な意見が出たが、今年度の事業計画についてもほぼ適切で効果的なものと判断できる。

職員が疲弊しないためにも、継続すべき事業、新規事業に加えスクラップも重要である。

(5) 今後のスケジュールについて

次回は10月又は11月の開催を予定